

【IV. 指標以外の観点からの評価】

取組 No.	指標以外の観点からの評価
①	<ul style="list-style-type: none"> ・オンラインによる移住セミナーや移住相談体制の整備など、コロナ禍に即応した事業実施により、移住希望者の会員組織「おおいた暮らし倶楽部」の会員数を137人(前年度比12.8%)増加させることができた。 ・移住相談窓口による相談件数について、前年度比で150件(23.6%)増加させることができた。
②	<ul style="list-style-type: none"> ・本県の強みである産業集積の厚みや市町村との連携による迅速なワンストップサービスを活かした誘致に積極的に取り組んだことにより、33件の企業立地があり、641人の新規雇用と290億円の設備投資に結びついた。 ・農業分野では、R2年度に20社の企業参入があり、223人の新たな雇用が見込まれている。
③	<ul style="list-style-type: none"> ・福岡都市圏の女性をターゲットとして、大分暮らしの魅力を伝える動画を配信し、当初想定(17万回再生)を大幅に上回る38万回再生を達成することができた。

【V. 施策を構成する主要事業】

取組 No.	事業名(2年度事業)	事務事業評価	
		成果指標の達成率(%)	掲載頁
①②	ふるさと大分UIJターン推進事業	88.4	156
③	移住者居住支援事業	88.4	156
②	企業等農業参入推進事業	100.0	185
	企業立地促進事業	73.3	227

【VI. 施策に対する意見・提言】

○第1回「安心・活力・発展プラン2015」推進委員会(R2.7)

- ・食べ物、海・山という大分県の印象にプラスαで差別化を図る何かが必要。
- ・大学で県外に出ていく生徒を減らす、あるいは福岡等に出た若者を県に戻す、そういった事業を強化する必要がある。

○第2回「安心・活力・発展プラン2015」推進委員会(R2.11)

- ・移住・定住の観点で、もっと先端技術に尖った施策が必要である。福岡県、福岡市が力を入れているが、創業の聖地と言われるよう、先端技術と創業とをセットにした政策を推進して欲しい。

【VII. 総合評価と今後の施策展開について】

総合評価	施策展開の具体的内容
B	<ul style="list-style-type: none"> ・移住の大きな壁である「仕事」の確保を支援するため、コロナ禍でも需要が高まるIT業界へ就職を目指す技術習得支援を行い、若年層を中心とした移住転職を促進する。 ・定期的な移住相談会の開催や専門誌による情報発信に加え、オンライン相談対応の充実や移住パンフレットの電子化などコロナ禍へ対応を強化する。 ・SNSによる情報発信を強化し、大分の暮らしの魅力を日常的に発信しながら移住関心層の獲得を図る。 ・福岡市における拠点施設dot. を活用し、学生やUIJターン就職希望者に対し、企業説明会を開催するほか、医療・福祉系職種、農林水産業などのセミナーを実施し、多様な職種への就業につなげる。 ・都市圏在住の女性を対象としたマーケティングに基づき、女性が叶えたいライフスタイルに関するセミナーやワークショップなどを実施する。